**第47回例会　アンケート集計**　　　　　　　　　　　　　　　 43／74

　　　　　　回収率：58.1％

●**性別**　　男　１３名　　女　２５名　　ＮＡ　５名

●**年代**　　20代　１名　　30代　６名　　40代　１４名　　50代　１３名　　60代　８名　　ＮＡ　１名

●**職種**　 ケアマネ　２２名　　介護職　 １名

　　　　　相談職　　５名　　看護職　１名

包括職員　４名　　行政職　１名

その他　 ７名　　ＮＡ　２名

●**講演会について**

　　大変良かった　２７名　　良かった　１３名

普通　２名　　ＮＡ　１名

　【自由記載】

　　・他では聞くことができないリアルな厚真の話を聞くことができてよかった。

　　・災害時にそなえる事、もっと一般に普及していかないと手は回らない。

　　・震災皆様大変な思いで過ごされていたと思います。支援が、このように、早めに対応されていた様子を、教えてもらい今後に生かしたいと思います。

　　・災害当日から落ち着くまでの流れを確認でき、当初の課題など報道などから伝わらない生の声を聞くことができた。

　　・厚真町で、実際にどのような取り組みがされたのかを知ることができた。

　　・被災地でボランティアの受入れ、復旧活動を主体となって組み立てる上での困難さや、提供できなかった必要な支援もあること等、当事者でなければ話せない言葉を聞くことができて、主体的に考えることができたと思います。

　　・災害の状況等知る事ができたと思います。実際、被災された方からの当時の状況を教えていただき、またその中でも仕事をしなければいけない状況の中、ご苦労も多くあったと思います。他人事ではないと自分もその時に冷静に対処できるようになりたいと感じました。

　　・まだ過去の事ではない。今もまだ進行中のことであると再認識いたしました。

　　・昨年の緊張を思い出し、現地の緊迫感をうかがい知りました。ボランティアセンター立ち上げまでの時系列がよくわかって興味深かったです。できれば、その後どのように福祉ボランティアの活動が行われたのか具体的な内容も知りたかったです。

　　・発生から、スライドを通し、記録していた状況がよくわかりました。また、支援の動きや流れがわかりやすい説明だった。

　　・災害ボランティアセンターの機能が分かった。

　　・各専門機関がどの時点でどういった形で連携するのか、苫小牧版の作成が必要なのだと思います。

　　・発災時の状況、復旧、復興に向けての課題等、スライドを多数用いて大変分かりやすかった。最後に話された、子どもを含め日常の活動の大切さなど、ご自身の思いが熱く語られたのが印象的で参考になりました。

　　・被災している中で、情報の集約や臨機応変に動かなければならない大変さを感じた。

　　・厚真町の震災～その時どのように対応したかを講師の山野下様から分かりやすく解説していただきました。またボランティアセンターの立ち上げの意思確認⇒…⇒決定⇒ボラ受入れ迄の説明について、困っている方とボラをマッチングさせる大事さを理解しました。

　　・ボランティアを受け入れる側の状況を整える力が必要でバランスが大事なのだとの事、ボランティアは今も継続中と知りました。災害がなければ、在宅継続可能な方も居たという事実もあり、災害はやはり怖いことなのだと思った。

　　・地域やボランティアなど、人と人とのつながりが大切で、人間力、総合力の重要性を感じた。

●**シンポジウムについて**

大変良かった　２０名　　　良かった　１９名

　　普通　１名　　Ｎａ　３名

　【自由記載】

　　・参考にさせていただきます。情報収集について。情報の正誤について。

　　・予防教室で、震災について講話を開催する予定。テーマを絞るのに大変勉強になりました。

　　・震災時に限らず、日頃からの情報共有、情報の発信がとても大切であるということを話されていましたので、今後具体的にどう情報共有・発信していくのかを明確にできると良いと思いました。（次の災害に備えなければいけないので）

　　・地震後、市からの話を今回初めて聞くことができよかったです。今後行政の対応に期待します。

　　・専門職とボランティアの線引き、専門スキルを持ったボランティアの必要性について考えました。

　　・福祉避難所について、大変勉強になった。

　　・震災時の多職種の動きについて把握することができた。

　　・危機管理室さんがんばって。

　　・各立場の方の動きを知る事ができた。

　　・災害支援ケアマネ、受講できるのか知ろうと思う。

　　・それぞれの立場から、普段からの地域のつながりの重要性や情報の共有化、フォーマル・インフォーマルを含めた連携の必要性について再認識しました。発表者の方々、どうも貴重な発言ありがとうございました。

　　・それぞれの立場からの話を聞けてよかった。

　　・福祉避難所とは？マニュアルについて改訂が必要と市の意向が聞けて良かったです。お恥ずかしながら存在すら知らなかったので…

　　・今後に役立つのでは。

　　・その立場（シンポジスト）の意見がきけて取り組み理解できた。

　　・市の取り組みとしてまだまだ情報発信など課題があると感じた。

●**今回の研修目標を達成することが出来ましたか。**

出来た　１２名　　概ね出来た　２２名

　　ややできなかった　３名

できなかった　２名

　　わからない　２名　　ＮＡ　２名

　【自由記載】

　　・皆さんのお話が上手でした。

　　・「支援力」会長がまとめの中で話をした「普段力」を考えながら、この研修を契機に取り組んでいきたい。

　　・災害時出動できるのはどこまででしょう。震度７以上ではうごけないかも。

　　・被災した場所へのボランティアは、参加したい気持ちはあるが、自分の仕事、家族などを考えると行動に移すのはなかなか難しいことを感じました。

　　・様々な課題があると知ることができたが、どのように対策していくかについては、今後考えていきたい。

　　・災害を通じて考える。専門職としてどう行動出来るのか？というところでお話を聞いて、どう行動出来るだろうと言う事を考えながら聞いてみましたが、今の時点で目標を達成する手段さえも、わからない状況ですが、時間を作り事務所内でも話していきたいと思います。

　　・市民が普通にまわりと協力してくれないとみんなも自分も救われない。

　　・被災の体験から必要なこと（備えること）がたくさんあることがわかっているので、具体的にどう動くべきかを考えなければいけないと思いました。

**●今後起きるであろう災害に向けて取り組んでいること、今後取り組むことを教えてください。**

|  |  |
| --- | --- |
| 【現在】 | 【今後】 |
| ・事業所内で、利用者の情報を整理しているところです。 | ・独居、高齢夫婦世帯と分けて、安否確認を行うため、事業所内に保管するよう、すすめています。 |
| ・利用者の保存情報、手持ち情報の整理。 | ・災害当日から安否確認がすみやかに行われる様、マニュアル等の整備。 |
| ・備蓄と確認。災害マニュアル整備。  ・独居、日中独居の方の緊急連絡先の整理。 | ・施設と地域の情報共有。  ・災害停電、断水時等の避難方法（独居、認知症）について。  ・リスクを考えた、利用者の名簿の作成。 |
| ・所属している法人では定期的に大規模訓練を行っている。  ・地域住民向けに防災食等、防災に関係する講話を企画して実施中。（年1回～2回程度） | ・地域向けの防災関連の講話等は継続していく。  ・町内会、老人会と定期で情報交換は必要だと考えている。 |
| ・今回の震災で、特に被害がなかった。しかし、想定していない事が色々あった。 | ・在宅酸素は、今後も課題と思う。エアーマットも、使えなくなったことあり。いろいろ想定して、考えていきたい。 |
| ・対応利用者名簿ができていない。 | ・作成する。家族との連絡方法も確認。 |
| ・緊急時災害マニュアル。 | ・正確な情報収集と安全第一で事業所として取り組んでいく。 |
| ・情報の収集。  　発生するとわからない事が多くある。自宅も職場も同様、設備の事、地域の状況、病院や施設等の対応も様々だった。マニュアルも役に立たない。 | ・同様。  活用できるようにしていく。 |
| ・担当利用者の避難所等安否方法についてすぐわかるようにまとめている。 | ・今ある資料の更新を定期的に行う。 |
| ・避難所の把握。  ・災害マニュアルの確認。 | ・災害時に地域と連携して動けるよう顔つなぎをする。（ケア会議などを通じて） |
| ・おくすり教室や服薬指導時に、災害時のお薬手帳の必要性を促している。 | ・災害時に、薬剤師がどのように動くべきか実例を確認しておく。 |
| ・家にいるという人が多いので説得している。 | ・地域づくり。札幌では前もって学生と約束しておりマンションに水を運んでもらったと言っていた。 |
| ・緊急時持ち出し品、備蓄品の用意。 |  |
| ・食糧、水の備蓄。 |  |
| ・特に取り組んでいることはありません。昨年9月から高齢者の中には精神面から体調がすぐれない、と訴える方が少なくありませんでした。年明け、春ごろまで聞かれました。そういう時傾聴以外に何か効果的なことはないだろかと考えています。 |  |
|  | ・安否確認先のリスト再作成。  ・災害支援ケアマネ、どのようなものか、確認しようかと思う。 |
|  | ・数日分の食料の確保。  ・災害後の正しい情報の判断等。 |
|  | ・震災時、要請があれば専門職ボラとして地域の方の支援に携わりたいと考えます。専門職会への入会をしました。 |

●**今後、当会に期待することはなんですか**

【自由記載】

　　・危機管理については具体策や事例含め繰り返し開催していただけたらと思います。本日はありがとうございました。

　　・もっと高齢の方がふえ若い人が少なくなる。この不安をなんとかしてのりきるアイディアを市民にも。

　　・狭間研至の講演会。

　　・団体の垣根を超えて、つながりを大切にしてほしい。

　　・役員が増えたことが良く働けばよいとは思いますが・・・。今後はこれだけ大きくなった会なので、各種職能団体から参画してもらうことが必要だと思います。役員をどのように選ばれていたのかはわかりませんが、介護、医療に関わる団体に広く声をかけて、そこから1名選出してもらう方法はとれないでしょうか。

　　・８０５０問題について。実践報告などを学んでいきたい。